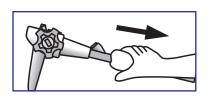
内視鏡の洗浄と機能水を用いた消毒の手順

ベッドサイド洗浄

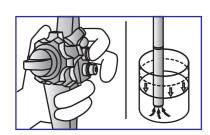
(1) スコープ外表面の清拭

検査が終わるとすぐに、内視鏡の外表面に付着した汚物 をタンパク除去剤を染み込ませたガーゼなどでふき取る。



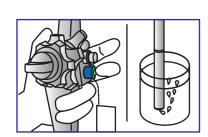
(2) 吸引・鉗子チャンネル内の吸引

200mL以上の洗浄液(中性もしくはアルカリ性洗剤)を吸引し、チャンネル内に残留している粘液や血液などを含む 体液を除去する。



(3) 送気送水チャンネルへの送水

専用のチャンネル洗浄アダプタを装着して、送気チャンネル と送水チャンネルの両方に送気・送水する。



4 光源装置から取り外し

スコープを光源装置から取り外す。

(5) 漏水テスト

防水キャップを確実に取り付けた後、取扱説明書に従い、 漏水テストを行う。

流し台での洗浄

(6) スコープ外表面の洗浄

洗浄液(中性もしくは弱アルカリ性洗剤)とスポンジ、ブラシ、ガーゼなどを用いスコープ外表面の汚れを落とす。スコープの操作部、挿入部、ユニバーサルコード部、コネクター部も洗浄する。先端のレンズ面は、専用の柔らかい布で洗浄する。

(7) ボタン類の洗浄

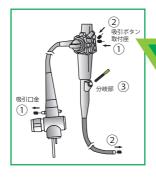
送気・送水ボタン、吸引ボタン、鉗子栓などをスコープから外して、それぞれ洗浄する。ボタン類や鉗子栓はブラシを用いて穴の部分まで洗浄しなければならない。 特に鉗子栓は蓋をあけてブラシで洗浄した後に、十分に揉み洗いする。



8 吸引・鉗子チャンネルのブラッシング

チャンネル洗浄ブラシを用いて、全てのチャンネルを ブラッシングする。ブラッシングの部位は、

- 1. 吸引ボタン取り付け座から吸引口金まで。 ※吸引取り付け座は毛足の長いブラシも使います。 ③と同じブラシです
- 2. 吸引ボタン取り付け座から鉗子出口まで。
- 3. 鉗子挿入口から鉗子チャンネル分岐部まで。
- の3箇所である。最後にブラシに汚れが付着してい ないことを目視で確認する。

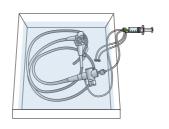




内視鏡の浸漬

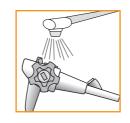
9 浸漬洗浄

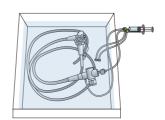
スコープを洗浄液(中性もしくは弱アルカリ性洗剤)に浸し、全管路洗浄具を用いてチャンネル内を洗浄液で満たす。



(10) 洗浄液のすすぎ

流水下でスコープ外表面をすすぎ、チャンネル内は全管路 洗浄具を用い大量の水道水ですすぐ。





消毒作業(軟性内視鏡用洗浄消毒器)

(11) 軟性内視鏡用洗浄消毒器へのセット

各消毒器の取扱説明書に従ってスコープをセットする。 使用する都度(毎回)、濃度を確認する。強酸性電解水は pHと有効 塩素濃度、オゾン水は溶存オゾン濃度を測定し、 使用機種の規格値の範囲内であることを確認する。

「使用する際の留意点(i項)」を参照

(12)スコープの取り出し

清潔な手袋を装着して、スコープを取り出す。

(13)乾燥(アルコールフラッシュ)

洗浄・消毒後のスコープは、すすぎ水が残存している 可能性があるので、吸引・鉗子チャンネル内にアルコール フラッシュを行い、さらに、送気や吸引で乾燥させる。

14) 保管

チャンネル内に水分が残っていると、保管中に細菌が 付着する可能性があるため、チャンネル内を十分に乾燥させる。

そのため、スコープは送気・送水ボタン、吸引ボタン、 鉗子栓などを装着せずにハンガーなどに掛けて保管し なければならない。



個人防護具 (PPE)



洗浄・消毒作業を行う時は、作業従事者は感染防止の為に、 手袋、マスク、ガウン(もしくは、エプロンとアームカバー)、 キャップ、ゴーグル(もしくは、フェイスシールド)などの 個人用保護具を正しく装着する。

清浄度評価と消毒評価については手引きの「洗浄度評価(p11)」「消毒評価(p13)」を参照して下さい。